

令和5年度 病害虫防除技術情報 第8号

令和6年3月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

イチゴにおける灰色かび病の防除について

2月に入ってから灰色かび病の発生が平年より多く確認されています。本病は多湿条件で発生が助長されますが、九州北部地方の1ヶ月予報（2月22日福岡管区気象台発表）では、降水量は多い確率が30%、平年並40%と予想されます。

ハウス内で日陰になりやすい部分や、梁下やハウスの四隅など結露が溜まりやすく湿度が上昇しやすい部分からの被害拡大が懸念されます。圃場内の観察を徹底し、早期発見および防除に努めてください。

1. イチゴにおける灰色かび病の発生状況

2月14～16日の巡回調査では、発生圃場率、平均発病株率は平年よりやや高く、平均発病葉率は平年より高く、平均発病果率は平年より低かった。

発生圃場率：40.0%（平年：29.6%、前年：50.0%）

平均発病株率：4.8%（平年：4.0%、前年：6.4%）

平均発病葉率：1.4%（平年：0.8%、前年：1.3%）

平均発病果率：0%（平年：0.5%、前年：2.1%）

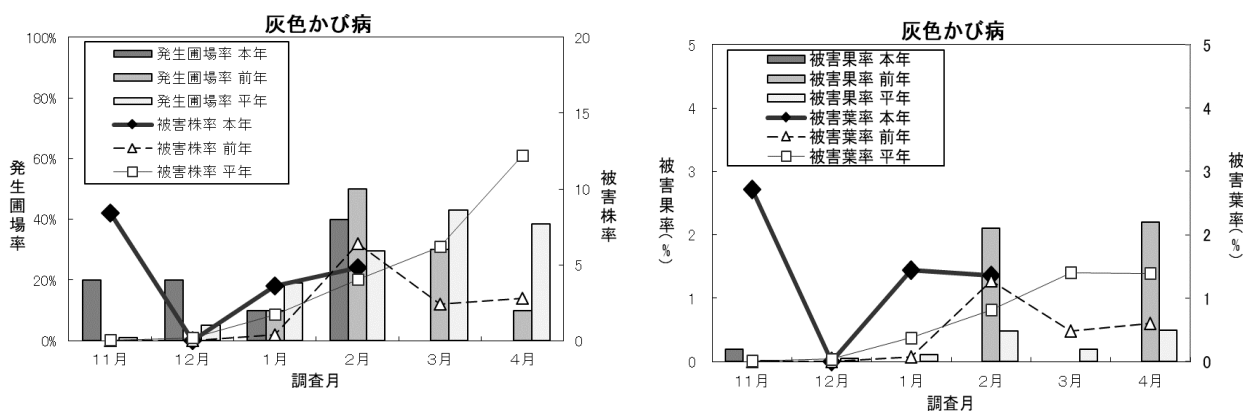


図1 発生予察巡回調査におけるイチゴ灰色かび病の発生推移

2. 防除上の注意事項

- ア 하우스内の菌密度が高いほど発病しやすくなるので、発病果や発病葉は見つけ次第ハウス外に持ち出し、土中に埋める等の処分を行う。
- イ 本病は多湿条件で発病が助長されるので、換気等を行いハウス内の過湿防止に努める。特に、ハウス内の南側に加温機やダクトが設置されている圃場では、北側が低温多湿になりやすいため、一層の防除対策に留意する。
- ウ 薬剤散布時には天候に留意し、薬剤散布後の施設内が速やかに乾燥するように注意する。曇雨天時は水和剤等の使用を控え、くん煙剤等を使用すると効果的である。
- エ 同一系統薬剤を連続使用すると、薬剤耐性菌を生じやすいため、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。
- オ 本病の薬剤感受性検定では、アゾキシストロビン剤およびピラクロストロビン剤（FRAC:11）、メパニピリム剤（FRAC:9）の耐性菌率が高かったため、少発生時の防除や予防目的での使用に留める。
- カ 防除に使用する薬剤は、以下の表を参考に容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

なお、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」
(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>)。

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



表 灰色かび病に登録のある薬剤の一例

FRAC	一般名	商品名
2	イプロジオンくん煙剤	ロブラールくん煙剤
7	ピラジフルミドフロアブル	パレード20フロアブル
9, U13	フルチアニル・ メパニピリムフロアブル	ショウチノスケフロアブル
11, 7	ピラクロストロビン・ ボスカリド水和剤	シグナムWDG
11	ピリベンカルブ顆粒水和剤	ファンタジスタ顆粒水和剤
11, M07	イミノクダジンアルベシル酸塩・ ピリベンカルブ顆粒水和剤	ファンベル顆粒水和剤
12	フルジオキソニルフロアブル	セイビアーフロアブル20
17, 12	フェンヘキサミド・ フルジオキソニル顆粒水和剤	ジャストミート顆粒水和剤
BM02	バチルスズブチリス水和剤	ボトキラー水和剤